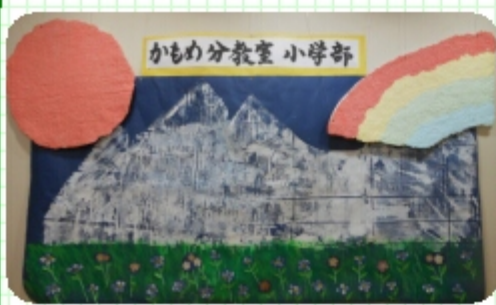


わか草

第28回 平成25年10月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25



オートムフェスティバル作品
(平成25年10月2日センターにて)

第50回 重症心身障害児者を守る全国大会に参加して 事務次長 川腰 喜久夫

私はこの七月に香川県高松市で開催された第五十回全国重症心身障害児(者)を守る全国大会に参加した際に、母子の絆の強さ、母が子を思う心の深さ広さを実感することが出来ました。大会の最後のほうで一人の母親が壇に立ち、障害を持つて生まれたわが子に詫げる言葉や、周りの人に助けられ、親同士が共に助け合いながらわが子を育て、親子が共に成長して行くことの大切さを切々と大会参加者に訴えている姿が印象的でした。私はこの母親の話を聞いていて室町時代に始まった日本の伝統芸能である「能」の中に隅田川という名作があることを思い出しました。作中では母が人さらいに奪われたわが子「梅若丸」を京の都から東国まで

苦勞をしながら探しに行くという、母子の絆と涙を誘う母が子を思う心情が描かれていました。いつの時代においても母が子を守るということは当然としても並大抵のことではないはずです。

最も弱いものを ひとりももれなく守る

「守る会」の三原則の一つに「最も弱いものをひとりももれなく守る」がありますが、弱いものを守るためには一人でも多くの方に守る会の考え方に賛同し

ていただき、障害児(者)の方々が少しでもより良い生活が出来るよう、みんなが手を携えていくことが最も重要だと思えました。

五年目を迎えて

私はセンターに勤めて五年目になりました。事務職員は、日ごろ利用者様と接する機会が少ないのですが、これからも障害児(者)の方々の生活が豊かになるようセンターの運営に努力していくつもりです。



オートムフェスティバル作品
〈巻頭〉
右斜め下:三階西病棟(こすもす)
右上:かもめ分教室中・高等部
右下:乳幼児通所 ほれほれ
左上:かもめ分教室小学部
左下:三階西病棟(ひなげし)
〈表紙下面〉
左下:通所

恒例行事

花火を楽しむ夕べ

センター恒例の花火を楽しむ夕べが八月七日、十四日、二十一日、二十三日、三十日の五日間にわたって開催されました。そのときの様子をご紹介します。



吹き上げ花火もみんなで見賞

<センター駐車場にて>

入所

の「花火を楽しむ夕べ」が開催されました。

八月恒例の「花火を楽しむ夕べ」が開催されました。今年初めて手筒という打ち上げ花火を取り入れたことで更なる歓声を頂きました。皆さんの心の中に夏の思い出のページが刻まれたことでしょうか！来年も素晴らしい花火が提供できますように頑張ります。

通所

雨が心配される中、通所花火大会が始まりました。

午前中は、太鼓の音で盆踊りがスタートし、全員手ぬぐいを頭に巻き意気揚々と踊りを楽しみました。その後待っているのは背筋もゾツとする様な肝試し。薄暗い廊下からは不気味な風の音や声、部屋には貞子が

待ちうけ恐ろしい体験をしました。クライマックスの花火は、オーブニングにオリンピック聖火リレー！新規の利用者が聖火台に火を付け花火がスタートしました。病棟職員やリハビリ科職員の応援を得て、手持ち花火や打ち上げ花火を大いに楽しみました。夏の日の良い思い出となりました。

通所遠足

乳幼児通所 秋遠足

みんなで手持ち花火 (↑入所 ↓通所)



歓声がひと際大きく挙がった大迫力の花火



すみだ水族館前にて記念撮影



九月十三日(金)に東京スカイツリータウンのすみだ水族館にみんなで出かけました。色々な魚に驚いたり感動したりしました。頭上を泳いでいるアザラシにみんな釘付けでした。昼時にソラマチで食事をしましたが、ご家族の皆様がのんびりと食事をしたり会話を弾ませていました。

一日看護体験



看護体験の様子
(病棟にて)

毎年、看護師をめざす高校生および社会人を対象に看護の理解と関心を深め、進路選択の一助として一日看護体験を受け入れています。今年度は、高校生二名と二十代社会人一名の三名において頂きました。体温・脈拍・血圧測定、車椅子補助、移乗の見学等実際に体験することで看護の魅力を感じて頂けたと思います。全員が、「看護の道に進みたいという気持ちを更に確かなものになりました。」と最後に語っていました。いつの日か看護の現場で一緒に働くことを心から楽しみにしています。



実際に利用者様と接してみよう
(病棟にて)

全国重症心身障害児(者)を守る
全国大会<7月20日-21日>



演説する有馬院長

香川県高松市のサンポート高松で第五十回重症心身障害児(者)を守る全国大会が開催されました。一日目は、四月一日より施行された「障害者総合支援法」を含めた行政説明が行われ、その後(国立施設部会)(重症児施設部会)(在宅施設部会)(母親部会)が各々のテーマに沿って講演と質疑応答を行いました。二日目には、「みんなで語ろう」にて保護者の方々の実体験が語られ、式典にて要望書が採択されました。次回は、記念すべき五十周年大会が東京で開催されます。

アジア太平洋発達障害会議
<8月22日~24日>

第三回アジア太平洋発達障害会議が八月二十二日~二十四日まで東京で開催されました。第一回は台湾、第二回はシンガポールで開かれ、日本の開催は今回が初めてであった。医学、臨床心理学、特別支援教育などの様々な分野の専門家、約五百人が参集。会議はすべて英語で発表討論されました。今回の国際学会のテーマは「多様性・個別の支援と地域支援の融合を目指して(Multiformity and diversity: Combining individual care and community-based supports)」とされた。

テーマに沿った教育講演、シンポジウム、口頭発表、ポスター発表が行



会場の様子

われきました。発達障害者へのケアと支援のあり方は各国や各専門領域によって異なりさらに対象は乳児期から高齢期まで幅広い世代に渡り、各演題で活発な討論が交わされました。当センターの多くの医師が教育講演や議論を拝聴し、発達障害の概念を捉え直す大変貴重な機会になったものと思われま

日本重症心身障害学会
<9月26日-27日>

栃木県総合文化センターで第三十九回日本重症心身障害学会学術集会が行われました。会場は二つに分かれて開催され、センターからも講演やポスター発表がありました。特別講演では、有馬院長を座長とし、「少年のころからの夢とロボットスーツHAILの開発、最先端技術の重度障害児者への応用」



有馬院長が座長にて行われた特別講演の様子

総合防火防災訓練

九月四日(水)に平成二十五年第一回総合防火防災訓練を行いました。今回は、大規模な首都直下型地震が発生し、その後津波が襲来するという設定で、自家発電装置も機能しなくなる恐れがあるという想定で実施しました。

訓練は、①非常食対応訓練(病棟・通所全利用者対象)、②通所利用者の一階から二階への避難訓練、③停電発生時対応訓練(ポータル発電機の作動、紙カルテ運用への切替)の三点を重点事項とし、各部門で実践しながらの行動訓練を行いました。具体的なシナリオに頼らない訓練方法で実施しましたが、各人が概ね的確な行動

が取れていました。

訓練後の反省会では、非常食の改善、対策本部の設置や連絡方法に対する意見が出されたほか、津波の際の通所利用者の二階への避難方法や医薬品の安全確保など新たな課題も見えてきました。センターでは、これらの反省も踏まえ、利用者の安全を確保するため、今後、対応マニュアルの改訂を行うほか、BCP(事業継続計画)の策定にも取り組んでいくこととしています。



災害対策本部の設置
(訓練風景)

ボランティア
茶話会

八月三十一日(土)にボランティア茶話会&研修会が行われました。ボランティア茶話会&研修会は、当センターで活動しているボラ

ンティアさんとボランティア委員の職員が参加し、意見・情報交換、交流を深める機会として毎年開催しています。

当日は五名のボランティアアさんが参加され、研修会では、ボランティアさんと職員とのグループワークを実施しました。

東部
あれこれ

今年の七月から九月にかけて当センターで行われた行事等について紹介します。

〔七月〕

十七日の水曜日、病棟のバスハイクがありました。場所はソニー・エクスパローサイエンスという商業施設です。施設内は利用者様が楽しめる音や光が豊富な上、車椅子の移動もしやすく、ペットションもあり、

ボランティアをする側、受け入れる側の感じていることや思いを共有でき、日頃の活動の振り返り、今後についての参考となる機会にもなりました。ボランティアさんが活発に活動を行えるよう、これからもボランティアさんとコミュニケーションを取る機会を大切に、年二回程度開催していきたいと考えています。

大いに楽しめました。職員による事前の下見が良かったようです。

〔八月〕
利用者様が毎年楽しみにしている「花火を楽しむ夕べ」も入所病棟で三回、通所で二回の計五回が三十日に無事終了しました。準備をしていたご家族及び職員の皆様、暑い中ありがとうございました。

〔九月〕
敬老の日を挟んで台風十八号が猛威を振るい、各地に被害をもたらしました。出勤早々、被害がないかを確かめに中庭に行きました



これまでのわが草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

編集後記

きこがマめと目な書の内容、たごなく。のこ次がるる鮮白す援れす事し止代。がしもいこま間ま防交た面待んざれり年いと紙期さだあわ三て化長までを皆く部代はしり務り覚とのて東がム当ネ事な感ご者げ手う担ににとる読あ